



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



木曽地方の温帯性針葉樹林（長野県木曽郡上松町 小川入国有林）

木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元 ～未来に向けて森林の保存・復元に取り組む～

主な項目	○ 平成26年度治山・林道工事コンクール表彰式の開催	P 2
	○ 各地からのたより	P 6
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

平成二十六年 度

治山・林道工事コンクール
表彰式の開催

平成二十六年 度治山・林道工事コンクール表彰式を、三月六日に中部森林管理局において実施しました。

このコンクールは、国有林野の公益的機能を十分に発揮させ、森林林業の再生の推進その他の事業実施における施策効果を一層発現させることに貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、治山・林道工事における計画、設計・施工の適正化及び設計・施工技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的に、治山部門は昭和四十二年 度から、林道部門は昭和四十四年度から実施しています。

前年度に中部森林管理局管内で施工した、治山工事百七十五件、林道等工



審査報告を行う中村森林整備部長

事三十八件を対象に施工管理全般及び安全管理について審査を行い、治山部門で十四件、林道部門で六件を優良工事として選出しました。この中から、優秀工事として治山部門四件・林道部門一件を林野庁表彰に推薦し、四件が林野庁長官賞を受賞しました。



表彰状の授与

また、優良工事として選出した、治山部門十四件の内十一件、林道部門六件の内五件と、林野庁長官賞を受賞した工事の現場代理人、主任技術者並びに監督職員が中部森林管理局長賞を受賞しました。

表彰式は、中村森林整備部長が審査報告を行った後、奥田局長が賞状を授与しました。

なお、林野庁長官賞の授与式は局長表彰に先立ち、二月二十三日林野庁において行われました。

各賞の受賞者は次のとおり

◎林野庁長官賞

〔治山工事部門〕

◇小谷建設株式会社 (小谷村)
土谷川地すべり防止工事 (中信署)



土谷川地すべり防止工事 完成状況

◇株式会社長瀬土建 (高山市)
阿多野郷(黒谷2) 復旧治山工事

(飛騨署)

◇株式会社尾割組 (豊田市)
瀬戸(余床川) 復旧治山工事

(愛知所)

〔林道工事部門〕

◇株式会社相模組 (大町市)
鹿島川林業専用道新設外工事

(中信署)

◎中部森林管理局長賞

〔治山工事部門〕

◇中越興業(株)・宮口建設(株)
経常建設共同企業体 (南砺市)

平成二十五年 度スゴ谷下流 復旧治山工事 (富山署)
(長野市)

◇株式会社守谷商會 復旧治山工事 (長野市)
平成二十四年度蔵野沢 災害関連連緊急治山工事(北信署)

◇宮下建設株式会社 (伊那市)
手良沢山水源地域整備事業 (南信署)

◇奥田工業株式会社 (大桑村)
奥二又復旧治山工事 (南木曾支署)

◇株式会社名工土木 (南木曾町)
鍋割中ノ沢(中ノ沢) 復旧治山工事 (南木曾支署)



鍋割中ノ沢(中ノ沢) 復旧治山工事 完成状況



東俣谷林業専用道新設工事 完成状況

◇窪田建設株式会社 (駒ヶ根市)

平成二十四年度通ヶ沢復旧治山工事

◇株式会社トライネット (伊那谷総合)

平成二十四年度大西山復旧治山工事

(飯田市)

◇小坂建設株式会社 (伊那谷総合)

三方崩 (弓ヶ洞) 復旧治山工事

(白川村)

◇株式会社清水建設 (飛騨署)

池本山 (下津野支溪) 復旧治山工事

(飛騨市)

◇日下部建設株式会社 (飛騨署)

馬瀬 (老谷) 復旧治山工事

(下呂市)

◇株式会社加藤工務店 (岐阜署)

湯舟沢 (コハ清水) 復旧治山工事

(中津川市)

◇[林道工事部門] (東濃署)

◇マツナガ建設株式会社 (須坂市)

大持林業専用道新設工事

(北信署)

◇大宗土建株式会社 (南木曽町)

ムクリ沢林業専用道新設外工事

(南木曽支署)

◇大山土木株式会社 (高山市)

東俣谷林業専用道新設工事

(飛騨署)

◇橋本建設株式会社 (高山市)

一色第二林業専用道新設工事

(飛騨署)

◇付知土建株式会社 (中津川市)

高時山 (カシモ谷) 林業専用道新設工事

(東濃署)



受賞者の皆さんと記念撮影

〔現場代理人、主任技術者及び監督職員部門〕

◇土谷川地すべり防止工事

小谷建設株式会社

主任技術者 北村 武揚

監督職員 岡庭 敏夫

◇阿多野郷 (黒谷2) 復旧治山工事

株式会社長瀬土建

主任技術者 牛丸 聡

監督職員 宮地 源治

◇瀬戸 (余床川) 復旧治山工事

株式会社尾割組

主任技術者 伊藤 明

監督職員 吉原 浩司

◇鹿島川林業専用道新設外工事

株式会社相模組

主任技術者 倉品 幸平

監督職員 松田 博文

◇中川地区民有林直轄治山事業

概成記念式典開催される

〔伊那谷総合治山事業所〕二月十九日、

長野県上伊那郡飯島町文化館において、

関係者約八十名による中川地区民有林直

轄治山事業の概成記念式典を挙行了まし

た。

中川地区は、昭和三十六年の梅雨前線

豪雨により被災したことから荒廃山地河

川の緊急復旧を図るため民直事業を実施

してきました。災害翌年の昭和三十七年

から今年度末までの五十三年間、総工

事費約百三十億円を投入し、今般事業を

完了することとなりました。



挨拶を行う奥田局長

式典の開会にあたり、奥田局長より、「本事業が無事概成に至ったのは、関係者各位のご理解・ご協力の賜物である。」と感謝と喜びの言葉が述べられました。

続いて、林野庁森林整備部治山課山地災害対策室・河合室長、長野県林務部・塩原部長、関係市町村長代表・杉本駒ヶ根市長の各位より、昨今の自然災害リスクと被災軽減につながる治山施設の重要性、長期間の事業採択への感謝を交えた祝辞を賜りました。

また、中村技術専門官、立邊治山技術官から、三六災害時の被災写真や事業初期の人力による復旧工事状況、時代経過とともに変わる工法、植生回復が進む山林と溪畔林などの説明がありました。

閉会にあたり、洞口所長より半世紀にわたる本事業に携わった全ての関係者に感謝の意を表し、式典を終了しました。

「木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組」に向けて

地域の名称「森林生物多様性復元地域」
地域の愛称「木曽悠久の森」

【計画課】中部森林管理局では、世界的にも希少で貴重と言われている「木曽地方の温帯性針葉樹林」を保存・復元していく取組について、平成二十五年度から有識者等による委員会を開催し検討を進めてきました。

今年度は、昨年度の検討委員会の報告書を踏まえて制定した「温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組について」（中部森林管理局長通知）に基づき、新たに有識者等一六名からなる管理委員会（座長・名古屋大学 山本進一名誉教授）を設置しました。委員会では、取組区域内の森林の取扱い方針等を定めた管



第三回管理委員会の様子

理基本計画を作成することとして検討を進め、三月十一日に第三回管理委員会を開催し、管理基本計画の取組方針をまとめました。この取組方針は、林野庁で今年度検討している保護林制度の見直しを踏まえて、来年度末までに、木曽谷（長野県木曽郡）及び木曽川（岐阜県中津川市）森林計画区の地域管理経営計画の別冊の管理基本計画として位置づける予定です。また、今年度は取組区域「森林生物多様性復元地域」の愛称を一般公募し、一四六名の応募数の中から最も応募多数であった「木曽悠久の森」に決定しました。

「木曽悠久の森（森林生物多様性復元地域）」イメージ



進めていく予定です。また、大学や研究機関の研究者、地域住民を対象とした現地見学会や一般の方々を対象にした写真コンテストの開催も予定しています。

本取組は、数百年にわたる超長期の取組を継続させていくことが重要で、地元をはじめ多くの方々の理解と協力が不可欠です。これまでの検討委員会及び管理委員会の概要及び配付資料は中部森林管理局HPに掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/keikaku/13026kentoinka.html>

第三回中部地区広域原木流通協議会開催される

【名古屋事務所】中部地区広域原木流通協議会（鈴木和雄会長、植木達人座長）は、二月十八日、第三回協議会を名古屋市内において、学識経験者、中部森林管理局、中部八県（長野、静岡、岐阜、愛知、新潟、富山、石川、福井）、県森連、市場、中央団体など関係者の出席の下で開催されました。

議事では、第一回、第二回で検討を重ねてきた「中部地区広域流通構想」が承認されました。

同構想には、原木の広域流通に関する計画として、①広域流通による原木の供給体制②流通コストの削減③原木供給可エネルギーの安定化④山元に還元する利益を増

大させるための基本方針⑤原木の品質確保が盛り込まれています。

その後、国有林、各県の行政、森林組合連合会、市場などの関係者から、それぞれの地域・市場の木材需給動向の報告・情報交換が行われました。その中には、各県において素材生産量の増大への取り組み、素材生産における人材育成の課題、木質バイオマス発電施設への供給と製材・合板・チップ等への影響など多数の意見等が出されました。

議事終了後には、名古屋大学大学院生命農学研究科准教授の山崎真理子氏による「製材品の強度を丸太の段階で推定し、効率的な応力波測定法」の講演が行われました。講演は、弾性波法によるヤング率評価、木材強度の観点から見た需給バランスの必要性、木材の有効活用、木材産業の振興のための地域産材活用建築、材質に応じた利用の重要性など、興味深い内容でした。



第三回協議会の様子

各種研究発表会に中部局の研究 研究成果、取り組み等を紹介

〔技術普及課〕中部森林管理局では、今年度、林野庁や研究会等主催の各種研究発表会に、平成二十五年度中部森林技術交流発表会で発表された国有林における課題を中心とした実証試験等の研究成果や民国連携の取り組み等について発表しました。

いずれの発表会でも多くの質問意見が出され、中部森林管理局の取り組みへの関心の高さが伺われました。

昨年十二月四日に開催された「平成二十六年度国有林野事業業務研究発表会」では、森林技術部門において、飛騨署の「民国連携による市町村森林整備計画のブラッシュアップについて（指標林の設定）」（岐阜県飛騨農林事務所と共同発表）が林野庁長官最優秀賞に、木曽署の「高齢級人工林ヒノキのブランド化について」（木曽官材市売協同組合との共同発表）が全国木材組合連合会会長賞に、また、森林ふれあい部門においては、東濃署の「岐阜県恵那農林事務所と東濃森林管理署の連携」（岐阜県恵那農林事務所との共同発表）が林野庁長官最優秀賞を受賞し、地域と連携した取り組みが高く評価されました。

今後も各種発表会へ積極的に参加し、業務研究等を通じて中部森林管理局の取り組み等を広く発信していきたいと考え



中部森林学会での南信署の発表風景

ています。

発表会名、発表課題、発表署等は次のとおりです。

発表にあたり、ご協力をいただきました関係団体等の皆様方には心から御礼申し上げます。

・第五十回関東・中部地区治山林道研究発表会
(八月二十八日)

「急傾斜地における法枠工の経過と勾配緩和網の導入について」
富山署、日本植生株式会社

・第五十四回治山研究発表会

(十月八日)
「治山工事における県産材型枠合板の実証的施工について」
中信署

・第四回中部森林学会研究発表会

(十月二十五日)
「白馬岳の山火事跡地のモニタリング調査について」

中信署、信州大学山岳科学研究所
「間伐材を利用した木製治山ダムの施工について」
南信署

「ササ生地におけるコンテナ苗を活用した更新の試み」
森林技術・支援センター

・国有林野事業業務研究発表会
(十二月四日)

「伐採と造林の一貫作業システムについて」
北信署、信州大学農学部

「高齢級人工林ヒノキのブランド化について」
木曽署、木曽官材市売協同組合

「民国連携による市町村森林整備計画のブラッシュアップについて（指標林の設定）」
飛騨署、岐阜県飛騨農林事務所

「岐阜県恵那農林事務所と東濃森林管理署の連携」
東濃署、岐阜県恵那農林事務所

・カラマツ林業等研究発表会

(二月八日)
「コンテナ苗の普及に向けた取り組み」
南木曽支署

・岐阜県森林・林業関係合同発表会

(二月六日)
「飛騨地域における民国の連携の取り組み」
飛騨署、岐阜県飛騨農林事務所

なお、当発表会では民有林サイドから、岐阜県恵那農林事務所、下呂農林事務所より、共同施業団地等、国有林（東濃署、岐阜署）と連携した取り組みについて発表がされています。

中部森林管理局・森林農地整備センター

中部整備局連絡会議を開催

〔企画調整課〕中部森林管理局・森林農地整備センター中部整備局連絡会議が二月二十五日、中部森林管理局において開催されました。

当連絡会議は、民有林・国有林を通じた一体的な林政を展開するため、情報交換や意見調整等を目的に設置したもので今回初めての開催となりました。

会議の冒頭、奥田局長のあいさつに続き、城土森林農地整備センター所長から九州の五木地域森林整備推進協定の取組の紹介があり、「九州に次ぐ第二、第三弾を中部で行いたい。」「苗木も共通課題。」「連携により木材の共同販売に繋がってほしい。」との話がありました。

会議では、お互いの事業概要や事業量、今後の苗木需要、低コスト造林の取組、契約事業体、森林整備推進協定等について情報交換を行い、「中部局から委託販売業務の問屋業者の情報をもった新たな業者に登録していただけた。」「コンテナ苗の単価は裸苗の二倍であるが増産されると単価が下がるため、中部